

大阪府立信太高等学校

令和元年度学校教育自己診断報告

信太高校学校教育自己診断委員会

＜ 目 的 ＞

- ① 信太高校の教育活動全般についての充実発展を図るため、教育の送り手と受け手の双方からの評価を点検・分析し、教育上の課題を明らかにすることで、今後の生徒への指導に役立つ資料とする。
- ② 毎年一定の時期に実施することで経年変化を把握し、生徒の指導に役立つ資料とする。
- ③ 「学校評価」について、教育委員会への提出書類の基礎資料とする。

＜ 実施時期 ＞

令和元年 11 月 7 日～11 月 29 日

＜ 実施対象 ＞

生徒、保護者、教職員

＜ 情報開示 ＞

生徒、保護者、教職員、学校運営協議会、学校ウェブサイト 等に開示

＜ 回 答 数 ＞

	回答数	全体数	回答率（前年度比）
生徒	812 名	875 名	92.8% (-1.5)
保護者	336 名	875 名	38.4% (+3.4)
教職員	66 名	68 名	97.1% (±0)

＜ 評価結果と分析の見方 ＞

設問の大半は[A：あてはまる B：ややあてはまる C：あまりあてはまらない D：まったくあてはまらない]の四択式です。生徒への「信太高校体験入学、説明会への参加」「部活動への参加」「所属コース」に関する設問の回答は最後の資料をご覧ください。

報告書では各設問を、

1. 学校運営・環境
2. 教育相談・人権
3. 学校生活
4. 学習・体験
5. 進路指導・生活指導
6. 特別活動・その他

に分類し、その中で特に注目すべき点について、評価・分析・重点目標を記しています。また使用している数値は『肯定的評価＝A＋B の％』です。

資料では設問毎にA B C Dの割合（％）を示していますが、未回答、小数第2位以下の四捨五入等により、合計が100％にならない項目があります。

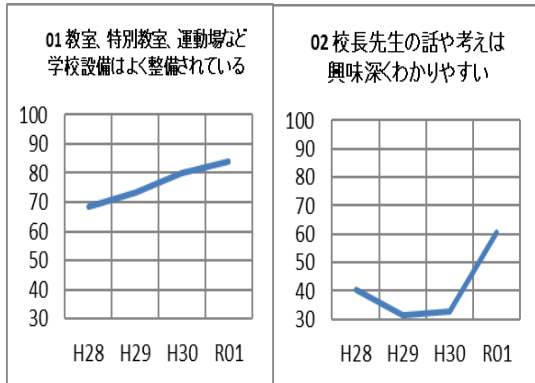
1. 学校運営・環境

<評価>

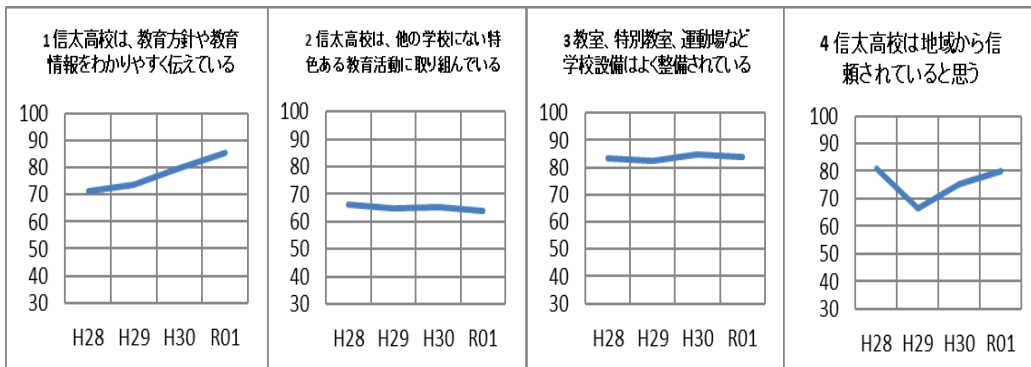
生徒・中学生のときに、信太高校の体験入学や学校説明会に何回参加しましたか

現1年生 (1回 35.8%・2回 8.1%・3回以上 3.5%) 計 47.4%

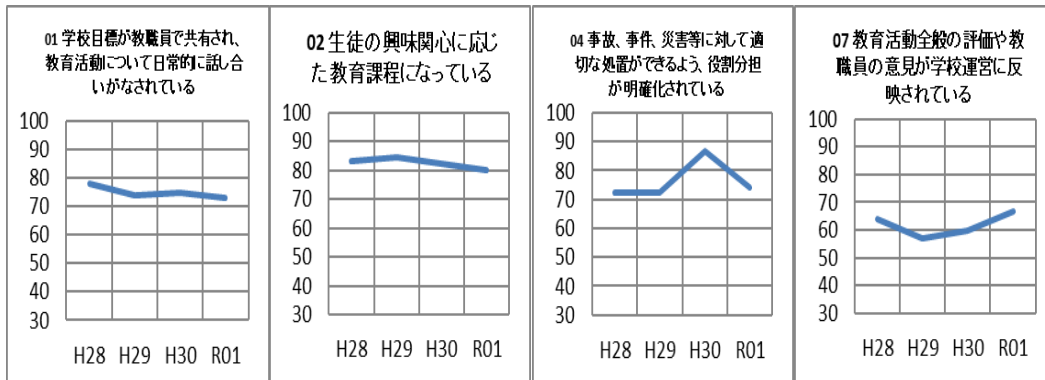
- ・教室、特別教室、運動場などの学校設備はよく整備されている 84.1%
- ・校長先生の話や考えは興味深くわかりやすい 60.5%



- 保護者・信太高校は、教育方針や教育情報をわかりやすく伝えている 85.3%
- ・信太高校は、他校にない特色ある教育活動に取り組んでいる 63.9%
 - ・教室、特別教室、運動場などの学校設備はよく整備されている 83.9%
 - ・信太高校は地域から信頼されていると思う 79.9%



- 教職員・学校目標が教職員で共有され、教育活動について日常的に話し合いがなされている 72.8%
- ・生徒の興味関心に応じた教育課程になっている 80.3%
 - ・事故、事件、災害等に対して適切な処置ができるよう、役割分担が明確化されている 74.2%
 - ・教育活動全般の評価や教職員の意見が学校運営に反映されている 66.7%



<分析>

- ◇生徒における学校設備の整備状態は84.1%に達し、昨年度と比較すると5.6ポイント増加した。これは、1学年に続き、2学年の全教室にプロジェクターを設置したこと等、ここ数年ICT機器の充実に力を注いできたこと、教職員研修を重ね授業等でその活用を推進してきた結果であると言える。

- ◇地域からの信頼度については、PTA活動など様々な取り組みの成果もあり、6.3ポイントの回復を図ることができた。今後もこれを継続し、更なる信頼の獲得をめざしたい。

- ◇「他校にない特色ある教育活動」については、ここ数年横ばい状態で伸び悩んでいる。今後の大きな検討事項であると言える。

- ◇「教職員間で学校目標は共有され、日常的に話し合いもされている」については、一定の割合であるが、教職員間の意見が学校運営に反映されていると感じている教員の数字は11.7ポイント上昇している。分掌や委員会、学年会等での教員間の意見が、運営委員会等の議論に反映され還元されるように今後も務める必要がある。

- ◇事故、事件、災害等に対する適切な処置については、昨年度と比較し8.5ポイントの大幅減少となった。この項目は、特に教員の普段からの意識に規定されていると思われる。ブログ、メール等を積極的に活用するなど、伝達手段についても整理・検討等を行ってきたが、やはり複数回の防災訓練等で、緊急時の行動や役割について意識する機会を設ける必要があると考える。

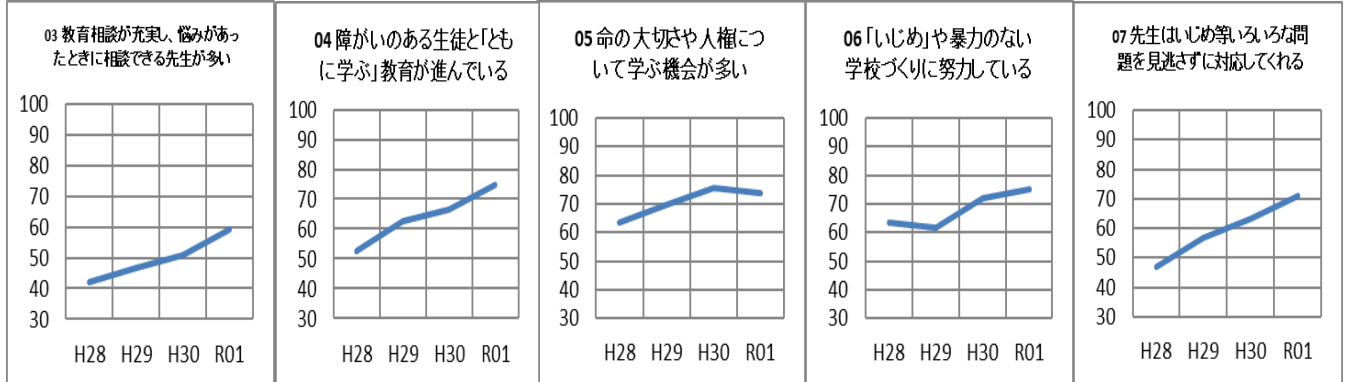
<重点目標>

入学者における体験入学や学校説明会への参加者数は、今年度の志願者数との結びつきが考えられる。したがって、今後体験入学や学校説明会のさらなる充実を図り、説明会への参加者数の増加をめざし、より多くの中学生に本校の魅力を伝えていく。またその際には、本校の特色について明確化し、発信する。

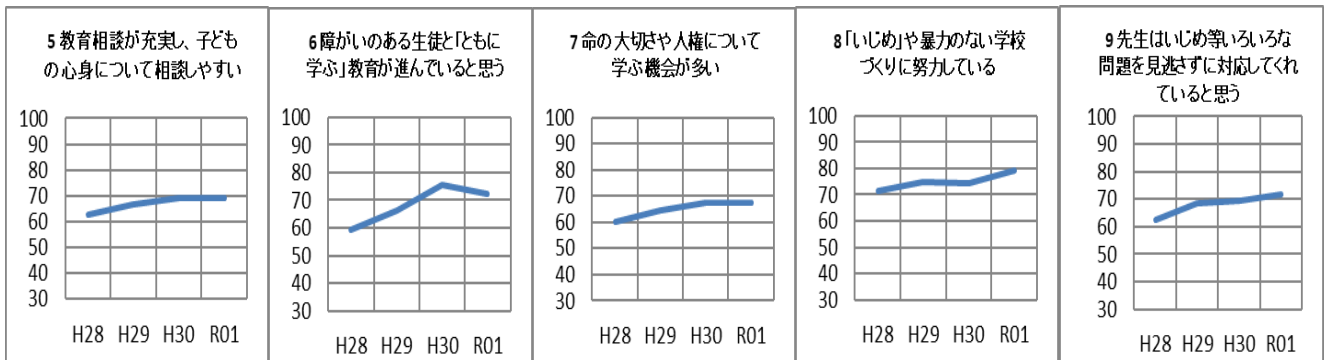
2. 教育相談・人権

<評価>

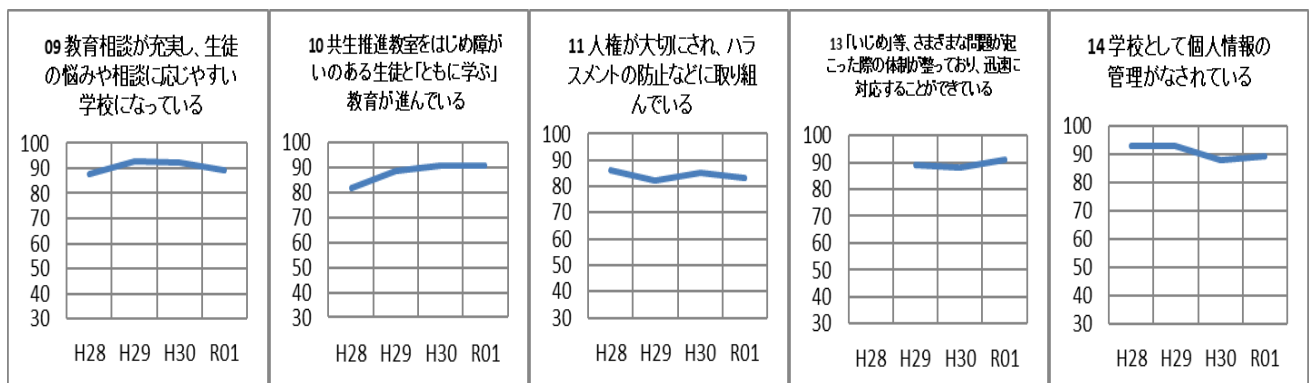
生徒・教育相談が充実し、悩みがあったときに相談できる先生が多い	59.4%
・障がいのある生徒と「ともに学ぶ」教育が進んでいる	74.6%
・命の大切さや人権について学ぶ機会が多い	73.9%
・「いじめ」や暴力のない学校づくりに努力している	75.0%
・先生はいじめ等いろいろな問題を見逃さずに対応してくれる	71.0%



保護者・教育相談が充実し、子どもの心身について相談しやすい	69.0%
・障がいのある生徒と「ともに学ぶ」教育が進んでいると思う	72.4%
・命の大切さや人権について学ぶ機会が多い	67.3%
・「いじめ」や暴力のない学校づくりに努力している	79.0%
・先生はいじめ等いろいろな問題を見逃さずに対応してくれていると思う	71.9%



教職員・教育相談が充実し、生徒の悩みや相談に応じやすい学校になっている	89.4%
・共生推進教室をはじめ障がいのある生徒と「ともに学ぶ」教育が進んでいる	90.9%
・人権が大切にされ、ハラスメントの防止などに取り組んでいる	83.4%
・「いじめ」等、さまざまな問題が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができる	90.9%
・学校として個人情報の管理がなされている	89.4%



<分析>

◇本校では、教育支援委員会を中心にスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを配置しており、きめ細かな教育支援体制が整っている。そのため「教育相談が充実し、悩みがあったときに相談できる先生が多い」の項目では昨年度よりも9ポイント増加している。

「先生はいじめ等いろいろな問題を見逃さずに対応してくれる」の項目でも同様に8ポイントの顕著な増加となった。「いじめ」や暴力のない学校づくりの項目では意識の高さが伺える。

◇「障がいのある生徒と「ともに学ぶ」教育が進んでいると思う」の項目では、生徒で9ポイント増加した。本校は共生推進教室が設置され今年度で6年目を迎えた。生徒、教員はもちろんのこと、学校行事等を通して保護者の方々の理解も年々深まっていることもわかる。

◇「命の大切さや人権について学ぶ機会が多い」の項目では生徒、保護者共に肯定的に感じており年々増加傾向にある。人権学習では人権教育推進委員会が中心となって、生徒が命の大切さや人権について、主体的に問題を発見し解決ができる力が身につくような計画を立て、講演会や授業を行っている。その成果が数値の上昇につながった。

<重点目標>

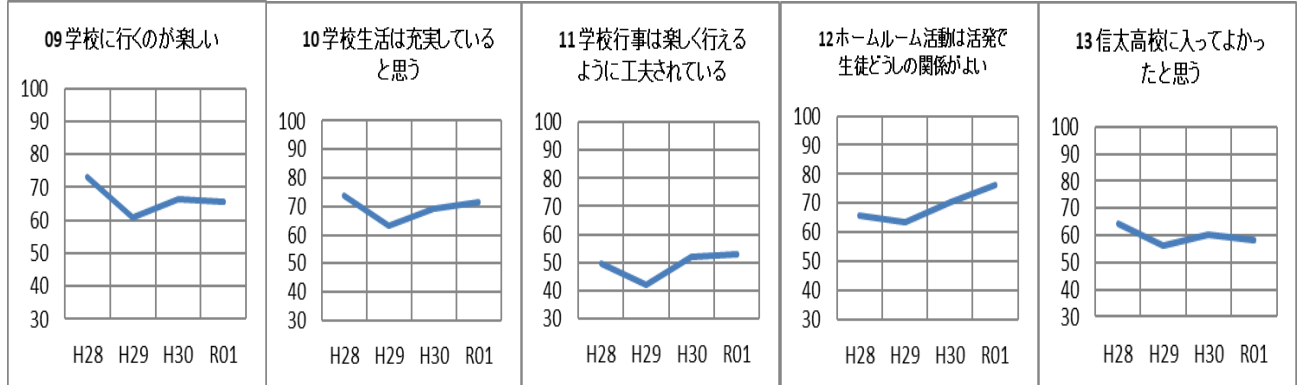
昨年同様、教育支援体制、相談体制については、肯定的回答が多くみられた。今年度も、生徒に寄り添った支援を心がけ、より一層安全・安心な学校作づくりを進める。

人権学習については、3年間を見通した授業計画を実施し、人権問題の正しい理解を図ることができた。「人権」に対する意識が着実に高まっている。今後も他者の存在を寛容に受容し、多様な価値観をお互いに認め合って生きていけるような取り組みを充実させていく。

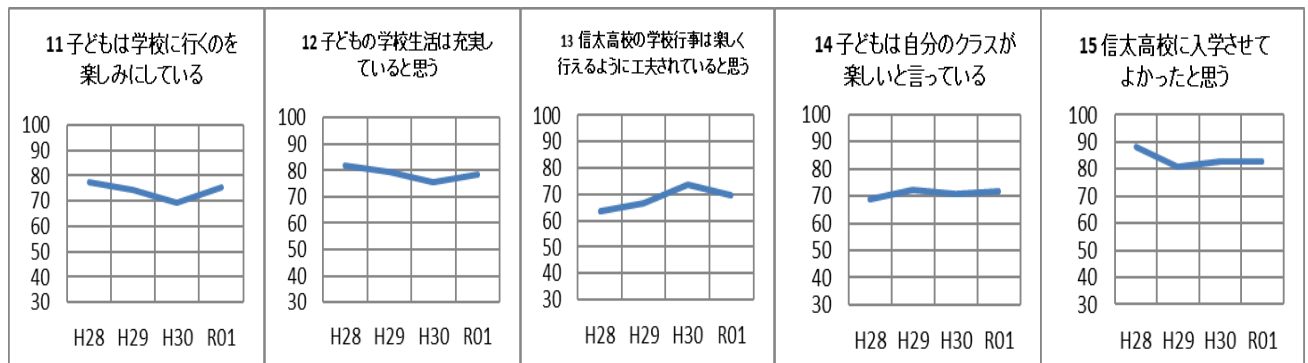
3. 学校生活

<評価>

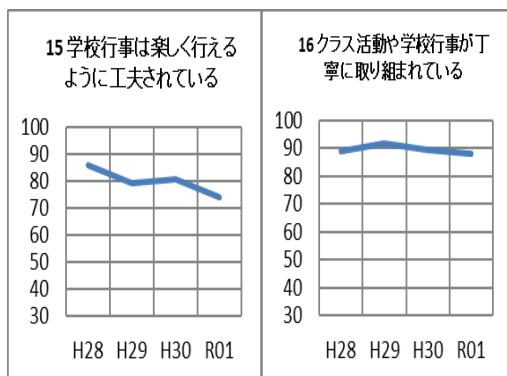
- 生徒・学校に行くのが楽しい 65.5%
- ・学校生活は充実していると思う 71.5%
- ・学校行事は楽しく行えるように工夫されている 53.0%
- ・ホームルーム活動は活発で生徒どうしの関係がよい 76.4%
- ・信太高校に入ってよかったと思う 58.4%



- 保護者・子どもは学校に行くのを楽しみにしている 75.6%
- ・子どもの学校生活は充実していると思う 78.6%
- ・信太高校の学校行事は楽しく行えるように工夫されていると思う 69.8%
- ・子どもは自分のクラスが楽しいと言っている 72.0%
- ・信太高校に入学させてよかったと思う 82.8%



- 教職員・学校行事は楽しく行えるように工夫されている 74.3%
- ・クラス活動や学校行事が丁寧に取り組みされている 87.9%



<分析>

◇生徒の「ホームルーム活動は活発で生徒どうしの関係がよい」の項目において近年の五年間で比較すると過去最高となった。「信太高校に入ってよかったと思う」と保護者の「信太高校に入学させてよかったと思う」とでは、20ポイント以上の差がある。

◇保護者の結果からは「学校に行くのを楽しみにしている」「学校生活は充実している」「子どもは自分のクラスが楽しいと言っている」の肯定的回答は昨年度より高い結果となった。

◇学校行事については、保護者と教職員で減少した。生徒については微増となったが53.0%とまだまだ改善の余地がある。

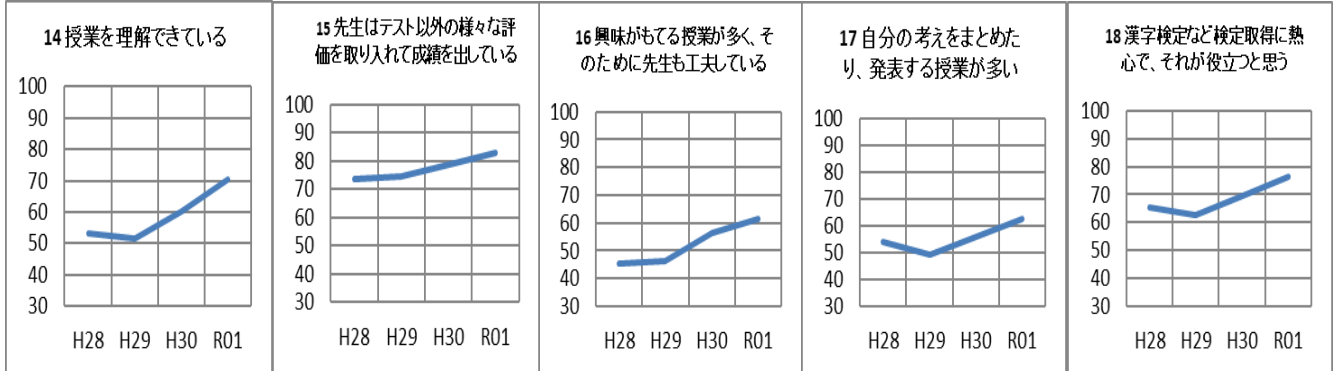
<重点目標>

全ての生徒が、楽しく安心して学べる居場所をつくることと充実した学校生活を送ることができるようにすることは学校として重要である。そのために保護者、教職員が普段から十分に連携を取りながら、今後ともより一層の工夫をしていくことが必要である。また、生徒主体の学校行事、生徒主体の授業、生徒主体の学級運営等、生徒が中心となった学校運営を推進することで、より生徒が達成感や充実感を得ることができるようにする。

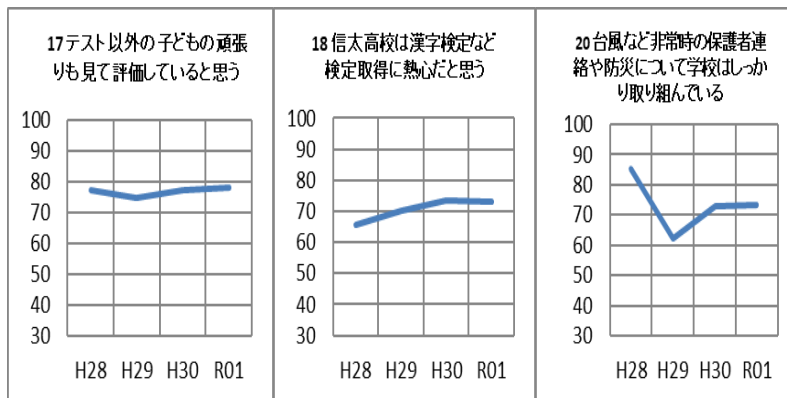
4. 学習・体験

<評価>

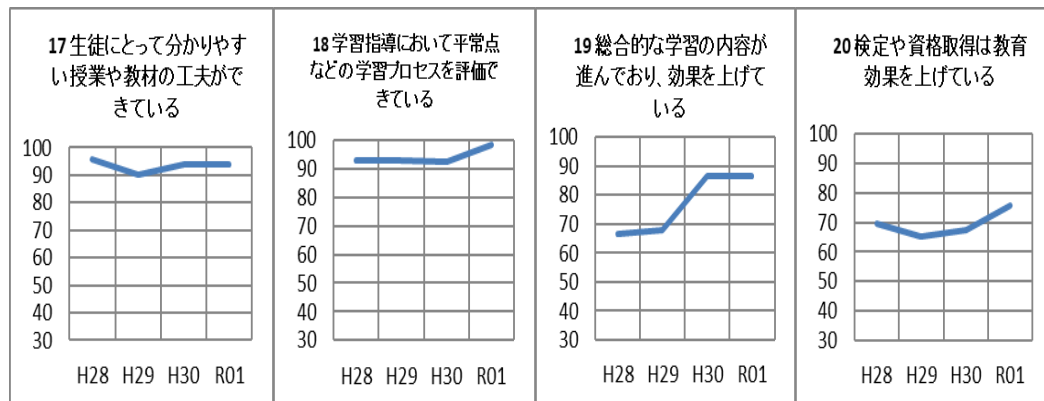
生徒・授業を理解できている	(3年 70.5% 2年 70.8% 1年 70.4%)	全学年	70.5%
・先生はテスト以外の様々な評価を取り入れて成績を出している			82.8%
・興味が持てる授業が多く、そのために先生も工夫している			61.6%
・自分の考えをまとめたり、発表する授業が多い			62.4%
・漢字検定など検定取得に熱心で、それが役立つと思う			76.6%



保護者・テスト以外の子供の頑張りも見て評価していると思う		78.2%
・信太高校は漢字検定など検定取得に熱心だと思う		73.1%
・台風など非常時の保護者連絡や防災について学校はしっかり取り組んでいる		73.3%



教職員・生徒にとってわかりやすい授業や教材の工夫ができています		93.9%
・学習指導において平常点などの学習プロセスを評価できている		98.5%
・総合的な学習の内容が進んでおり、効果を上げている		86.4%
・検定や資格取得は教育効果を上げている		75.7%



<分析>

- ◇「授業を理解できている」に対する生徒の回答は3学年ともほぼ70%と、どの学年も類似する数値となった。昨年からの比較によれば10.2ポイントの増加である。過去最も高い数値となっており、年々増加傾向にある。
- ◇「テスト以外の様々な評価を取り入れて成績を出している」の項目に対しては、生徒、保護者ともに肯定的回答が増加している。生徒については、4ポイント増の82.8%となった。評価方法についての研究を進め、その成果を教職員全体で共有し、指導方法・評価方法の多様化を推進してきた成果が表れたものと思われる。
- ◇防災や安全についての項目に対する生徒、保護者の理解、評価は増加傾向にあり避難訓練や日頃の指導、授業での教材の取り扱いなどが評価された結果である。また、漢字検定など検定取得に対する項目や保育体験など体験活動に対する生徒全体の評価も増加となり、進路指導部、活性化委員会等を中心に体験活動について力を入れた結果であると考ええる。

<重点目標>

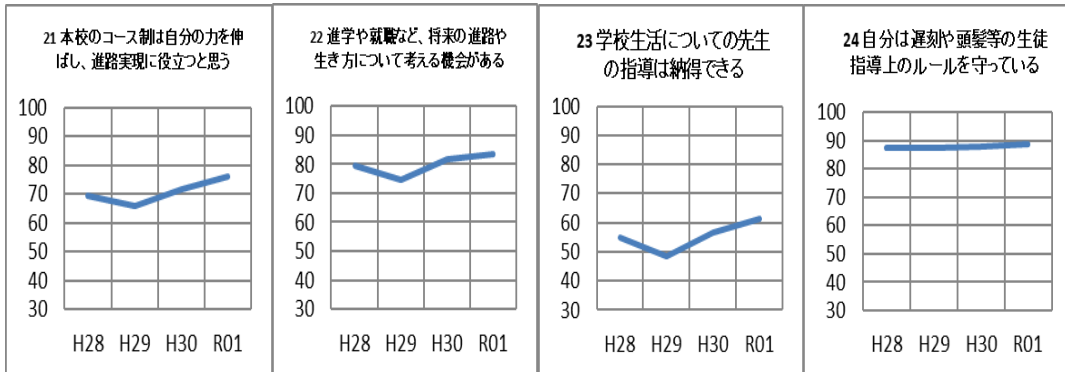
上記の結果に加え、授業アンケートの結果が過去のデータと比較して上昇傾向にある。これは、昨年度からの重点目標である「生徒が達成感を得られる授業づくり」「生徒の授業理解度の向上」を意識して授業改善に取り組んできた結果だと思われる。この取り組みを引き続き全教員で進め、生徒の主体的な授業参加や授業理解度のさらなる向上を図る。

また、体験活動をさらに活発にする為、その周知の方法を改善する。

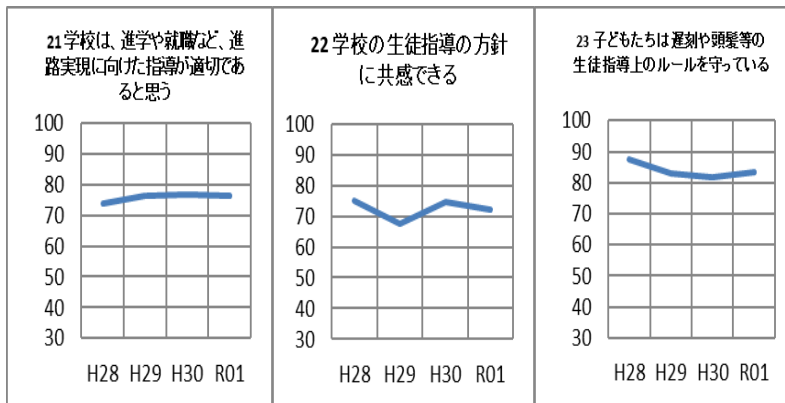
5. 進路指導・生活指導

<評価>

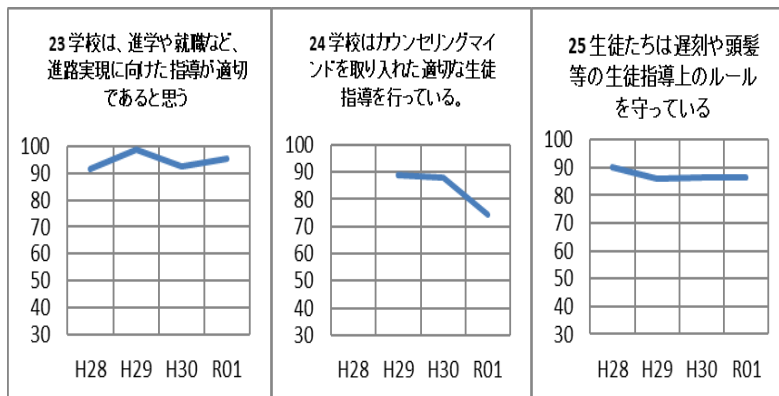
- 生徒・本校のコース制は自分の力を伸ばし、進路実現に役立つと思う 76.1%
- ・進学や就職など、将来の進路や生き方について考える機会がある 83.4%
- ・学校生活についての先生の指導は納得できる 61.4%
- ・自分は遅刻や頭髪等の生徒指導上のルールを守っている 88.9%



- 保護者・学校は進学や就職など、進路実現に向けた指導が適切であると思う 76.3%
- ・学校の生徒指導の方針に共感できる 72.0%
- ・子どもたちは、遅刻や頭髪等の生徒指導上のルールを守っている 83.4%



- 教職員・学校は進学や就職など、進路実現に向けた指導が適切であると思う 95.5%
- ・学校はカウンセリングマインドを取り入れた適切な生徒指導を行っている 74.3%
- ・生徒たちは、遅刻や頭髪等の生徒指導上のルールを守っている 86.4%



<分析>

- ◇「本校のコース制は自分の力を伸ばし、進路実現に役立つと思う」に関して、1年生では総合的な探究の時間において自ら気になる職業を調べて発表を行い、2年生からは本格的にコースに分かれるため、進路実現に役立つと実感している生徒が増えている。

- ◇「進学や就職など、将来の進路や生き方について考える機会がある」については、83.4%と高い結果になっている。また、教職員においても生徒たちの将来と真剣に向き合い、丁寧な指導ができているため、95.5%と非常に高い結果になっている。来年度以降も継続して良い結果を出せるように、教職員全員でのサポート体制を継続したい。

- ◇「遅刻や頭髪等の生徒指導上のルールを守っている」では、生徒・保護者・教職員のすべてにおいて80%を上回っている。「学校生活についての先生の指導は納得できる」では、4.8ポイントの増加となったが、各学年の数値に少し差がある。

<重点目標>

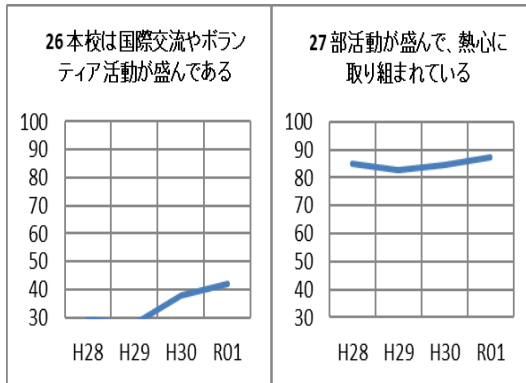
生徒指導について「ルールを守っている」の項目に対する肯定的回答は生徒、保護者、教職員いずれも高い数値となっている。昨年度は生徒の「納得」の部分で大きな差があったが、その差を縮めることができた。教職員の「学校はカウンセリングマインドを取り入れた適切な生徒指導を行っている」の項目では大幅な減少となっているため、これまで以上に生徒に寄り添った指導を行う。

進路指導の面では、3年間を見通した系統的・継続的なキャリア教育を充実させるとともに、社会や生徒の状況に応じて進路実現につながるカリキュラムマネジメントを進めていく。

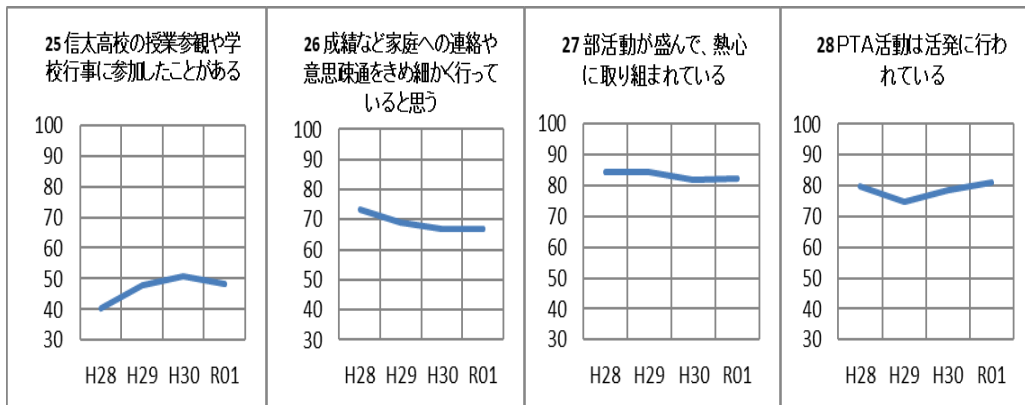
6. 特別活動・その他

<評価>

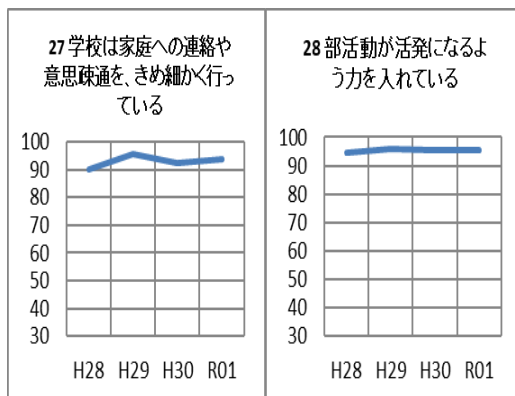
- 生徒・本校は国際交流やボランティア活動が盛んである 42.2%
- ・部活動が盛んで、熱心に取り組まれている 87.3%
- ・部活動に入っていますか (運動部 22.8% 文化部 12.8% 両方 0.1%) 全体 35.7%



- 保護者・信太高校の授業参観や学校行事に参加したことがある 48.3%
- ・成績など家庭へ連絡や意思疎通をきめ細かく行っていると思う 66.7%
- ・部活動が盛んで熱心に取り組まれている 82.2%
- ・PTA 活動は活発に行われている 81.0%



- 教職員・学校は家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っている 93.9%
- ・部活動が活発になるよう力を入れている 95.5%



<分析>

- ◇部活動に関しては、生徒・保護者・教職員いずれも高い意識を持って取り組み、またその実感があることがわかる。一方、部活動の加入率については昨年同様、半数に満たなかった。

- ◇国際交流やボランティア活動が盛んであると感じている生徒は年々増加傾向にある。ボランティア清掃、吹奏楽部による訪問演奏会、その他学校行事における準備等では、クラブ生が中心となって積極的に取り組んでいる結果である。

- ◇保護者との意思疎通に関しては、教員 93.9%であるのに対し、保護者 66.7%となっており、保護者と教職員の意識に大きな差が出た。また、保護者の「本校の授業参観や学校行事に参加したことがある」ではやや減少した。PTA 活動に関しては毎年高評価をいただいているが、特に今年度は、過去 5 年間の中で最も高い 81%であった。

<重点目標>

部活動の加入率の増加を目標とし、より一層部活動の活性化を図る。国際交流やボランティア活動については、生徒がやりがいや成長を実感できるような取り組みを進める。保護者との意思疎通については、メーリングリストやホームページの活用も含め、情報提供の内容や頻度等について検討し、共通の認識を持てるようにする。また、保護者が公開授業等に参加しやすい学校となるために、PTA 活動や学校行事を充実させる。